

臨床腫瘍多職種研修会開催報告

山口大学医学部附属病院
腫瘍センター事務局

令和8年6月4日（木）に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、臨床腫瘍多職種研修会が、本院大講義室オーデトリウムで開催されました。本研修は、院内のがん医療に携わる医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・MSW等の医療従事者を対象とした臨床腫瘍に関する研修会で、多職種89名の多くのスタッフの参加がありました。

今回のメインテーマは、「患者さん各々にとっての最適な終末期をどう客観的に評価するか？」で、医師と看護師それぞれの視点から、終末期医療における評価やアプローチについての講演が行われました。

研修プログラム

本院腫瘍センターの井岡診療教授による司会のもと、以下の2つの講演が行われました。

1. 「その人にとっての“よい終末期”とは？」

- ・講師：立石 彰男 先生（たていし内科在宅診療所 院長）
- ・講師：三隅 恵美 先生（訪問看護ステーション私の家 看護師）

2. 「その人らしい最期をどう捉えるかー多職種で共有するケアの視点ー」

- ・講師：山田 健介 先生（総合病院山口赤十字病院 緩和ケア内科副部長）

参加者の声（アンケートより抜粋）

参加者からは、日々の臨床現場を振り返る多くの前向きな意見が寄せられました。

- ・「数値化は難しいが、その人にとっての良い終末期についての視点が広がった。」
- ・「患者さんの本音、価値観を引き出し、チームで共有していくことの大切さを改めて感じました。日頃の関わりを大切にしていきたい。」
- ・「医療の進歩やAIなどの導入がある中で、ひとの思いや価値観に寄り添った、ひとでなければ出来ないことの大切さを感じました。」

多職種が一堂に会し、それぞれの視点から終末期ケアの本質を考える、大変有意義な研修会となりました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を企画してまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

